

第 1 回検討委員会の意見整理

| 項目 | 意見整理 ※【】内は意見の通し番号と委員名（敬称略） |
|----------------------|---|
| 全体に関わる事項 | <p>(1) まず先に何をやる場なのか考える ・まずは誰が何をやるかを考えた上で、最終的に必要な施設があるとすれば何なのかという順番で議論を進めるべき【22 佐藤（泰）】</p> <p>(2) 過去の事例に学ぶ ・戦災復興記念館を教訓にして考えてはどうか【07 遠藤】</p> <p>(3) 他の被災地に聞く ・他の被災地から見て、仙台の拠点に何を求めるのか聞いてみるとよいのでは【08 遠藤】</p> <p>(4) 他施設との関係性や活用を考える ・求められる機能によっては施設規模・立地に影響する。現在市内で検討中の施設等との関係性も含めて検討すべき【06 遠藤】 ・既存施設を活用する可能性もある。特にメディアテークの役割が大きい【27-2 マリ】</p> <p>(5) 震災当時の被災状況を感じられる現場ではないことを念頭において考える ・距離の遠さを理由に沿岸部施設に行かない市民に対して訴求できる可能性があるが、人が来てくれない可能性もある。【18-1 佐藤（翔）】</p> <p>(6) 地元住民にとって客体化する危険性があることに注意が必要 ・人と防災未来センターの事例を鑑みると、中心部は市外から求心力を持つ一方、地元の人が客体化する危険性をはらむ【20 佐藤（翔）】</p> <p>(7) 悲惨な体験を乗り越えるためには、忘却も必要であること ・悲惨な体験を乗り越えるためには忘却が必要だった【24-1 志賀】</p> |
| 何のために（目的） | <p>(1) 世代を超えて経験をつなぐため ・犠牲を無駄にしないために何をすべきか考え取り組むべき【14 大泉】 ・世代間倫理：世代を超えて災害の経験がバトンタッチされていくような場に【34 野家】</p> <p>(2) あらゆる危機を乗り越えるため ・災害を乗り越える準備も常に移り変わる。作って終わりではなく、常に更新し続けられるものが求められる【12 植田】 ・これから起こり得る災害、想定外があること、それにどう向き合っていくか考えることも重要な視点【23 佐藤（泰）】</p> <p>(3) 都市の未来のため ・震災だけの視点ではなく、時代的役割、街のランドデザインの中での役割を踏まえた検討が必要【17 大泉】 ・過去を忘れずにおくことが未来に何をもちたらずのか【30 本江】 ・災害の経験を仙台市のアイデンティティとして捉え、災害文化を創り広げていくためのセンター【31-2 本江】</p> |
| 何をどのように（目的を達するための要素） | <p>(1) 伝承に求められる基本的要素</p> <p>①現場・人・物のセット ・被災現場、施設、人がセットであることが効果的【04 遠藤】 ・現場の持つ力にはかなわない。震災を学ぶには現場とセットであることが大事【18-2 佐藤（翔）】 ・伝えるためには場所、人、物の 3 つを揃える必要があり、仙台市全体としてその機能をどう備えるか【27-1 マリ】</p> <p>②アーカイブ ・記録を集めても活用されていない課題がある【01 佐藤（翔）】 ・アーカイブについて、何を記録し、何を残すべきかという改めての議論が必要【02 佐藤（泰）】 ・アーカイブ機能は、すでに進んでいるプロジェクトと調整しながら、重複しないように【03 野家】 ・アーカイブの質と量を検討する必要がある【05 遠藤】</p> <p>(2) 世代を超えて経験をつなぐための要素</p> <p>①持続的な動き ・過去を記録するだけでなく現在とのつながりをもたせることが必要【09 遠藤】 ・災害を乗り越える準備も常に移り変わる。作って終わりではなく、常に更新し続けられるものが求められる【12 植田】（再掲） ・東北の中での中心的な役割。長いスパンでの取組が必要。アーカイブ1つとっても、その体力をもってやれるのが仙台であるという心構え【21 佐藤（泰）】 ・人の死によって気づかされたことを無駄にせず、今の現実をもっとよく見たり向き合うための場であるべき。そうでなければ、未来に対しても過去に対してもアクティブではない【26 志賀】 ・何かをつくって一丁あがりにはせず、持続的な活動の場に【33 野家】</p> <p>②震災にとどまらない広がり ・震災を中心に捉えながらも、震災にとどまらず様々な部門をつなぐハブに【11 石垣】 ・特定の災害を覚えておく施設というよりも、災害とともに生きるには何か必要かを発信する【31-1 本江】</p> <p>③多様な経験 ・被災の状況に応じ、時間が経ってからも語れるように、市民に開かれていることが必要【13 植田】 ・被災のレベルが個人でもあまりにも違う状況がある【24-2 志賀】 ・多様な物語が交錯する場、物語を紡ぎなおす場に【35 野家】</p> <p>④あらゆる人に受け入れられる物語 ・自分自身は抽象度を上げて震災を乗り越えてきた【24-3 志賀】 ・モニュメントなどは、価値観を変えられた破壊や人の死などから発せられた沢山の物語が背景にあり、人々に愛されるものであるべき【25 志賀】 ・多様な物語が交錯する場、物語を紡ぎなおす場に【35 野家】（再掲）</p> <p>(3) あらゆる危機を乗り越えるために必要な要素</p> <p>①防災について学ぶ仕組み ・子どもから大人まで防災教育の機能もあった方がよい【19 佐藤（翔）】 ・防災を勉強できる施設はあった方がよい【28 マリ】</p> <p>②市民のアクションにつなげる仕組み ・建物だけではなく、人の育成や研究など、市民にアクションを起こしてもらえる仕組みを考えていく場が必要【10 石垣】 ・災害の悲惨さを伝えて終わるのではなく、個人の実践につなげる工夫が必要【15 大泉】 ・市民協働を進めてきた仙台市として市民がアクションを起こす場所を作る【32 本江】</p> <p>③これから起こり得る災害や想定外があることを考える仕組み ・これから起こり得る災害、想定外があること、それにどう向き合っていくか考えることも重要な視点【23 佐藤（泰）】（再掲） ・特定の災害を覚えておく施設というよりも、災害とともに生きるには何か必要かを発信する【31-1 本江】（再掲）</p> <p>(4) 都市の未来のために必要な要素</p> <p>①災害文化・アイデンティティを創造する仕組み ・災害の経験を仙台市のアイデンティティとして捉え、災害文化を創り広げていくためのセンター【31-2 本江】（再掲）</p> |
| 仙台の特質 | <p>・仙台ならではの機能も追及すべき【16 大泉】</p> <p>(1) 東北のゲートウェイ ・仙台にまず来て、次の場所に行けるようにすることが大事な役割【29-1 マリ】 ・施設同士をつなげると同時に、地域につなげる、地元・東北の文化も大事に【29-2 マリ】</p> <p>(2) 東北唯一の政令指定都市 ・東北の中での中心的な役割。長いスパンでの取組が必要。アーカイブ1つとっても、その体力をもってやれるのが仙台であるという心構え【21 佐藤（泰）】（再掲）</p> <p>(3) 市民力のまち ・市民協働を進めてきた仙台市として市民がアクションを起こす場所を作る【32 本江】（再掲）</p> |